

1 計画の目標 「すべての子どもがあらゆる機会と場所において自主的に読書活動をおこなうことができる」環境づくり

2 第2次計画期間における子ども読書活動に関する主な状況等

<p><b>家庭における取組み</b></p> <p>5か月児セミナーにおける「夢をはぐくむはじめのいっぽ(ブックスタート)事業」を契機とした取組みの充実</p>	<p><b>学校などにおける取組み</b></p> <p>子ども園等・小・中学校 ボランティアを活用した朝読書での読み聞かせや紙芝居口演・ブックトークの実施 高等学校・特別支援学校 高校生等の対象を意識した図書の配架の工夫と展示企画</p>
<p><b>地域における取組み</b></p> <p>図書館・絵本館 外国語で書かれた子ども向け図書の充実 各種団体 子育て支援ツールとしての絵本の活用</p>	<p><b>人材育成</b></p> <p>読み聞かせや本の修理、選書の相談など希望者に対する講習会の実施 子どもの読書活動に直接かかわる人材(ボランティア、職員等)の養成と活動の広報</p>

**現状での課題**

(1) 小・中学生の読書時間の調査では、越前市は国や県の状況を上まわっているが、年齢が上がるにつれて読書離れが顕著

(2) スマートフォンの普及等により、家庭でインターネットやSNS等を利用し、ゲームや映像を視聴する時間が増え、読書離れに影響

**取り巻く情勢の変化**

- 情報通信手段の普及・多様化  
取組み① 電子媒体の読書環境の整備
- 読書バリアフリー法の制定  
取組み② 視覚障がい者等の読書環境の整備
- 学習指導要領の改訂  
取組み③ 学校図書館の利用と活動の充実
- 国・県の計画との関連  
取組み④ 乳幼児期から発達段階に応じた読書活動の推進



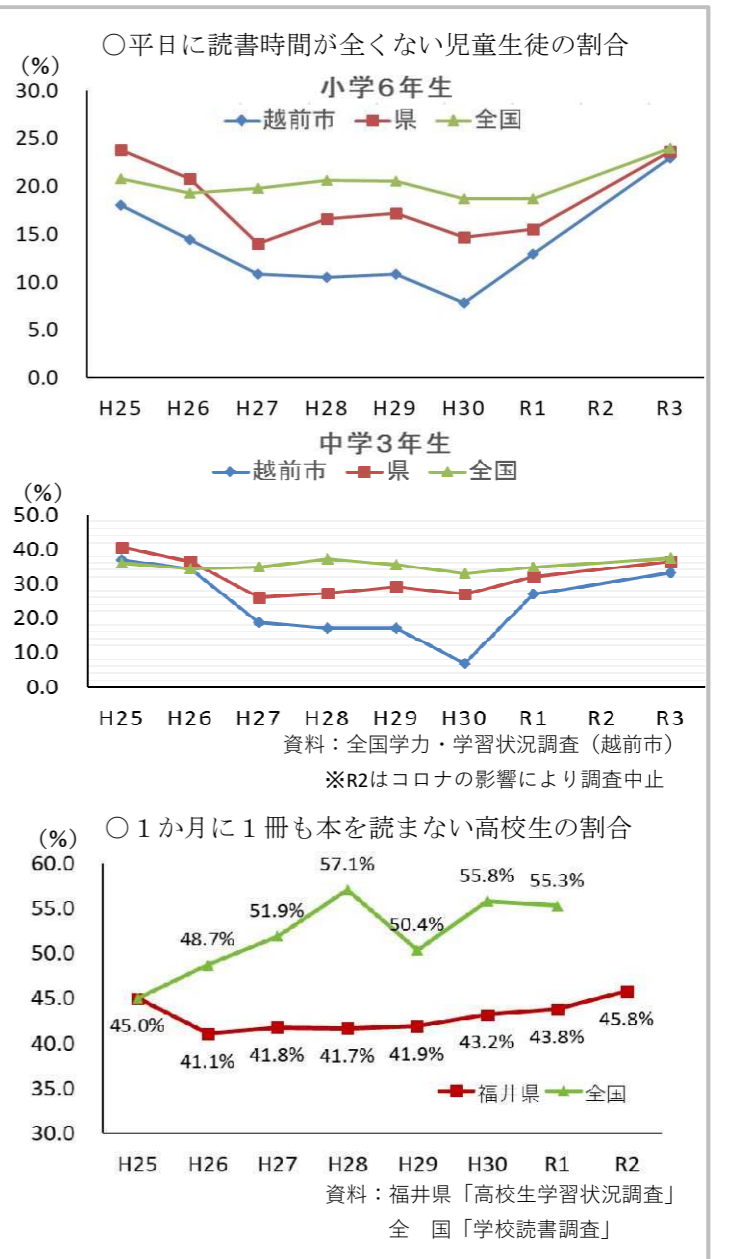
3 計画実現のための取組み

現状	対策
<b>1) 家庭における読書活動の推進</b>	
<p>情報通信機器の発達により、幼い子どもへの読み聞かせの代わりに、DVDやインターネットで動画を見せる家庭が増加している。</p> <p>子ども自身も、スマートフォンやインターネットの使用率が高くなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が習慣として身につくような環境を整備するため、家庭における「本がある生活」の啓発が必要となっている</li> <li>・家庭での親子読み聞かせを習慣づけていくことが必要</li> <li>・家読書(うちどく)の推進</li> </ul>
<b>2) 地域における読書活動の推進</b>	
<p>図書館、絵本館、社会教育施設、地域子育て支援施設等で紙芝居を含む児童書の所蔵や貸出、読み聞かせ等の読書活動推進のための事業を実施している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども向け図書の利用が促進されるような事業の実施、運営が必要</li> <li>・外国人児童生徒及び外国語を学ぶ子どもや障がいのある子どもに対する読書活動の支援が必要</li> </ul>
<b>3) 学校などにおける読書活動の推進</b>	
<p>発達段階に応じた絵本の読み聞かせや紙芝居口演を日常的に実施している。</p> <p>小・中学校では全校一斉読書や週末読書、家庭読書が実施され、本に親しむ習慣づけを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書習慣を確立するために、絵本や物語の楽しさや出会い多様な機会を提供する必要がある</li> <li>・本に関する情報発信や収集に際し、通信機器やSNSを有効活用できる情報教育の推進が必要</li> </ul>
<b>4) 子どもの読書活動を支える人材の育成</b>	
<p>図書館や絵本館では、子どもの読書活動に関する市民ボランティア向けの講座を開催したり、市民ボランティア間の連絡会を実施したりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの読書活動に直接かかわる人材の研修とその機会の創出を図ることが必要</li> <li>・子どもの読書活動に関心を持つ保護者など、将来ボランティアになりうる人材の発掘・確保が必要</li> </ul>



**主な取組み**

- ・子どもが成長に合わせて本に親しめるよう、保護者など大人の読書に対する意識を啓発し、家庭で一緒に本を楽しむ読書習慣の啓発を図る【新規】・・・④
- ・「夢をはぐくむはじめのいっぽ(ブックスタート)事業」の推進と参加できていない家庭への絵本の提供・・・④
- ・紙媒体にとられない読書方法の広がりや、近年の感染症対策のため電子書籍の導入を検討【新規】・・・①
- ・親子や子ども対象の事業に、読み聞かせやブックトーク、紙芝居の口演を取り入れるよう働きかける【新規】
- ・子ども自身が積極的に読書推進活動のリーダー的役割を担える「ジュニア司書講座」等を企画し人材を育成【新規】
- ・障がいの状態や程度に応じた図書の整備を行う・・・②
- ・児童生徒が、学校図書館を利用し、情報を収集・活用し、まとめたり、報告したりする活動の充実を図る【新規】・・・③
- ・本に関する情報発信や収集に際し、通信機器やSNSを有効活用できるように、情報教育を推進する
- ・小中学校が連携し、ノーメディアデーを設定し、読書の時間を確保する取組みを行う
- ・保護者に対し、家庭における読書活動の大切さを啓発し、読み聞かせ等の研修、講座の情報を積極的に発信し、将来的にボランティアになりうる人材を発掘する【新規】・・・③
- ・子どもの読書活動にかかわる市民ボランティアへの支援を行うとともに、講習会等を実施しボランティア養成に努める



**4 5年後の達成目標**

	現状	目標R8
「読書が好き」な児童(小学6年)の割合	78.2% (R1)	80%
「読書が好き」な生徒(中学3年)の割合	71.4% (R1)	75%
平日の読書時間が全くない児童(小学6年)の割合	23.0% (R3)	10%
平日の読書時間が全くない生徒(中学3年)の割合	33.1% (R3)	15%
1か月に1冊も本を読まない高校生の割合	45.8% (R2)	40%*

※高校生の達成目標は福井県のR6の達成目標値

**5 持続可能な開発目標 (SDGs)**

「4 質の高い教育をみんなに」の達成に向けての取組み